新世紀のキャンパス
Campus of New Century

大手前大学

キャンパスの真ん中に位置する「CELL」のルーフガーデンは
キャンパス・ハブとしての役目も持つ

従来の大学図書館を進化させたメディアライブラリーCELL

世界的アーティスト黒田アキ氏による
パブリックアートと植栽のコラボレーション
が美しい「コスモガーデン」

オープンカフェ「FOGLIA（フォリア）」は学生の憩いの場

大手前学園創立60周年記念事業のコア施設として2007年9月にオープンした「メディアライブラリーCELL」。Communication＆E-learning Libraryの意を持つCELLには，開架閲覧室，小部屋（cells），e-ラーニングコンテンツセンター（スタジオ），マンガ・アニメコースのPC教室，多目的ホール，カフェ，カンファレンスルームなどが設置され，従来の大学図書館の概念を打ち破るメディアライブラリー（情報図書館）としての機能を持つ。

「発注者と設計会社とゼネコンが同じ方向を向いてコンセプトワークにかかわり，三者三様の満足度が得られる事業を実現できた」と語るのは，福井有大手前学園理事長だ。

小部屋，細胞などの意味を持つ「cells」は，20人前後が使用できる16室のガラス張りの小部屋で，グループワーク式や講義式など形式も様々だ。講義・ゼミのほかにも，図書館内でも資料を見ながら活発に会話ができる少人数教育実践スペースで，自由な発想を尊重しようと使用目的は敢えて決めていない。ユニークなのは，各部屋の内側と外側それぞれに扉がある点。たとえばライブラリーの休館日でも外部扉から出入りでき，学生，教職員のみならず近隣住民の誰もが使用できるようになっている。

“ウェブ2.0”時代に対応するため，e-ラーニングに特化した大学として，800あるカリキュラムのうち手始めに教養，資格関連の科目をデジタルコンテンツ化し，在学生，通信教育課程，地域に開放しようとしている。

カリキュラム改革を行ったこともコンテンツセンター設置の理由のひとつだ。大手前大学は2007年度よりどの学部に入学しても，44の専攻から学びたいものを自由に選択できる「ユニット自由選択制」をスタートした。これを機に，2つあるキャンパスのうち，いたみ稲野キャンパスは1年生，さくら夙川キャンパスは2～4年生が学ぶ場とした。ただ，学年を超えた授業を受けたい場合に，離れた場所を行き来するのは学生の負担が大きい。そこでe-ラーニングによる双方向授業を活用しようとしている。

3学部横断で専攻を自由に選べる「ユニット自由選択制」の教育の考え方は，cellsの「資料や目的を自由に選択して学ぶ」という考え方とも一致する。こうした「ユニット自由選択制」の延長にある，大手前大学の新たな教育技法「CELL教育研究所」の実践の場として，CELLを活用していくという構想も進行中だ。

自由なコミュニケーション空間「cells」の可能性は未知数

無機質な空間にあえてアシンメトリーに柱を配置，人間らしさを表現した1Fライブラリー

地下1Fの「スタジオ」では，e-ラーニング用のデジタル講義コンテンツを制作

地下のcellsはメディア芸術（マンガ・アニメコース）が使うことを想定したコンピュータールーム

映画の上映もできる200人収容可能な多目的ホール「フォーラム」

この記事は参考になりましたか？ご意見をお聞かせください
※ご使用の環境によってはセキュリティ警告が表示される場合がございます
ご意見・ご感想フォームを開く